

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500532		
法人名	アサヒサンクリーン株式会社		
事業所名	アサヒサンクリーングループホーム吉田		
所在地	静岡県榛原郡吉田町神戸2701-2		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町村受理日	平成23年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2275500532&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成23年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの理念である「何処よりも家庭的で、帰りたい場所」づくりをしており、ハード面においては一軒家をリフォームして皆さんが住んでおられますので施設感が感じられないことと、職員と利用者間は家族の雰囲気を変えささないように、喜怒哀楽が素直に出せるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般住宅を改装・増築したこともあり、家庭的な雰囲気が漂う優しい空間がある事業所である。また、笑顔で出迎える職員とともに、回廊型になっている廊下を自由に行き来し、またそれぞれが居場所をもってつづぐ利用者の様子にも気持ちが和む。事業所では、利用者にとって「何処よりも家庭的で、帰りたい場所」でありたいと考えている。そのため、家族のためにおはぎを作ったり、嫁にクッキーを焼いてもらったりといった、家族ならするあたりまえのことをしていきたいと、お菓子づくりを定期開催している。その際は利用者が主役となるよう、「〇〇さんまんじゅう」といったネーミングをつけたり、在宅時のレシピを披露してもらっている。また、機能訓練も在宅ならば…と意識し、掃除と組み合わせるなどの工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰にでも理解されやすい言葉で、「何処よりも家庭的で、帰りたい場所」を掲げている。理念を玄関に張り、スタッフ全員が周知している。当社の基本理念も朝礼時に唱和をしている。	ほとんどが3年以上の勤務者であり定着率が高いこともあり、理念が浸透していると管理者は捉えている。また、利用者への職員の対応やアンケート結果などからも客観的に確認できる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホットな家として駆け込みの家として役割りをしておりますが、廻りに民家が1件しかなくなかなか交流が進んでいないのが現状です。	住宅地ではないため隣近所のつきあいはないが、老人会で開催する太極拳やコーラスなどの集まりなどに出掛け交流を深めている。本年度は地域の作品展への出品も検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解を深めるため、小劇団を編成して「認知症の対応について」老人会の集まりの時に上演をし、なかなか好評でした。再開予定し、今年度は毎月の集会になるべく参加して地域の方々と共に認知症を理解していただくよう努めております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記のように、当社による小劇団を上演することが運営推進会議によって決まったこと。消火訓練を運営推進委員のメンバーを加えての実施。避難訓練の協力。	AEDや認知症など多様なテーマを取り入れている。また、年に1回は一緒に食事をとっていただくようにしており、事業所への理解を深めていただく機会となっている。	年5回まで実施し、内容も大変充実している。今後は6回を目指し、実現することを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や意見交換など随時行っている。高齢者支援課とは気軽に話し合える状態である。	運営推進会議の参加が欠かさずあり、日頃からきめ細かな指導を得ている。現在は主にスプリンクラー設置について相談にのってもらい助かっている。介護相談員の訪問もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を含め全スタッフで周知しております。帰宅願望、徘徊等の利用者は説得やふれあいの時間を増やすなど取り組んでおります。また夜間時においてのベッドからの転倒の恐れある方は家族に対して説明と同意の上4点柵を実施しています。	心身を守るため緊急やむをえない場合は家族の合意を得、「切迫性」「非代替性」「一時性」の要件を満たした上で取り組んでいる。また、その際には書面化し、記録もとっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律を学ぶところまではいいはないが、常識程度の知識はあり、虐待が見過ごされないよう常に注意を払っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者までは研修等で学んではいるが、実際にそういう機会がないと、話し合いや活動を支援までは手が届かない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と話し合いの場を設け、十分な話し合いの上、誤解が生じないよう配慮をしている。当社として契約に関する研修を行い万全を期している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の個人記録に合わせて、面会に来られた時には、利用者の近況・健康状態・相談・意見交換・要望を必ず行っている。利用者に関しては、毎月1回、介護相談員の方が来訪され、あの利用者の方はこう言っていたよ、と情報交換をしている。	バイタルなどの個人記録について確認を含み押印いただくことを月1回程度お願いし、来訪を促す工夫をしている。また、来訪時には情報交換を十分するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングの他、朝礼で提案や利用者の介護方針等を決定し反映している。	月1回は意見交換の場を設け、収束している。個人面談の機会は設けていないが、経験の少ない若い職員にはマンツーマンでOJTに取り組み、またメンタルフォローへの配慮もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等などの金銭面での待遇は本社が管理しているため改善はなかなかできないのが現状で、労働時間においては、一定の方が残業が多くならないよう仕事の分散化を図っておりできるところはきっちり行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・全体研修と社内研修に力を注いで職員の教育・実力アップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流を図りたいのが山々ですが、社内の実務で精一杯の状況で取り組めないのが現状です。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族の見学を始め、本人の不安や求めていることなどをじっくり傾聴した上、グループホームの介護保険における役割やホームの特徴や出来ること、出来ないこと、家族の協力などを事前に話し合い納得して頂くような機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当然ながらアセスメントをしっかり行い、全職員が情報を共有し、同じ目線で介護を実践できる話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、ケアマネージャー、管理者と三者会談は必ず設けているので、色々な面を考慮して、実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小さな行事でも利用者全員に声をかけ、説明している。生活の役割割りも利用者全員がなにかしら参加出来る様に工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族の間に、なじみの関係が築けるように、家族の来訪時や電話連絡等の時は、気さくな声かけや、節度持ちながら気さくな態度で対応を実行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間帯を特に設けず、突然の面会や外出などが柔軟にできるようにしている。	家族の訪問とともに家族との外出もスムーズに対応できるよう努めている。家族支援のもと、美容室やマッサージなどの利用が継続できている利用者もいる。また、外出の際に撮影した写真は希望があれば家族にも渡している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段は食卓のホールで過ごすことが多いが、最近入所された利用者のなかには、個室で一人の時間を過ごされる方がおられますので、一人の行動と全体の行動とを見極めて、孤独感がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近の退所は、特養に入所と病院への入院(その後死亡)ということで関わりがきれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の準備・支度・片づけをする方、趣味をする方、横になりたい時は自分の部屋で横になったりとか、一人一人の思い、行動を重視している。	食事の好みや外出について、利用者から意見を取り入れる機会を設けている。意見が出やすいように普段から、ゆとりと会話をもつように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの再確認、家族・親族・友人・近所の方などの新たな情報の活用、利用経過においての変化など小さなことを見逃さないよう注意を払い介護計画に反映をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時・朝食時・バイタルチェック時などの様子で今日一日の体調を図り朝礼時または随時、連絡・報告をしあって体調管理に注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ一人一人が利用者の担当を持って異常がないか、変化はなかったか毎月1回のケアカンファレンスで話し合い、家族との協力が必要な場合はケアマネージャーを通じて、家族と話し合い介護計画書に反映をしている。	訓練の内容によっては医師の指示を仰いだり、家族との意見交換の場をもつようにし、内外のチームによる取り組みをしている。計画作成ならびにモニタリングはケアマネージャーが行っているが、職員全員でカンファレンスをしている。	職員一人ひとりがプランに基づいたケアサービスが実施できるよう、職員教育または実施方法の工夫についてさらに検討することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者は1ヶ月に1回はモニタリングを行い、毎月のミーティングに話し合いをして介護方針を見直している。また急な変化に対しては随時カンファレンスを行い、現状に即した介護計画に変えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後やっていきたいサービスには、ハードルは高く、人員の増・職員の志、知識の向上・地域医療の交流など会社の社員教育・当社1社での取り組みではなかなかできないので、行政や地域を巻き込んで取り組みなど課題は多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・自治会長等の御誘いや依頼をして、その地域の行事（老人会・お祭りなど）に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	小さな病状変化などについても、家族への報告は欠かさないようにしている。その後の様子を見逃さないよう監視を続け、思わしくない時は受診を勧め、経過記録を渡している。	各々が在宅時からのかかりつけ医であり、家族が付き添っている。ただし、必要に応じて職員が同行している。医療記録は申し送りや支援経過に記載し、共有化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在中していないので、同じ敷地内にあるDS・STの看護師に助言及び検診をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと当社のケアマネージャーとの経過状況等を早い機会を持って話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の取り組みは検討中。	できるだけ家族の意向に添いたいと考えているが、医療行為がある場合は難しいため、随時家族と話し合うことを大切に考えている。他施設への入所の際にはスムーズな移転ができるように連携を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの導入で外部からの協力は得たが、職員一人一人の力量は未知数です。訓練を定期的に行うことが現状です。5/23にALSOKの講師を招いて研修を再度行いました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に則って年2回の消防訓練を実践に即した訓練を行っている。また通報訓練も必ず行っている。地域との協力体制は当社の廻りに民家が1件しかなく実践にはいたってはいない。	5月の訓練では津波を想定し、高台まで避難訓練している。夜間想定にも取り組み、毎回設定を替えている。災害時に備えた飲料水や簡易トイレの備蓄があるが、さらなる備蓄の拡充を目指している。	地域の防災訓練に参加し、関係づくりを進めることを期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を一番に考えて接し、家族が話し合っているような雰囲気を忘れないように配慮している。	自己決定と自己選択に重きを置いている。また、管理者は「職員と利用者の関係が円滑であるか」について常に心に留め、気づきがあれば個別にフォローしている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食後の後片付けが終わったゆったりとした時間に、やりたいこと・行きたいことなどの話をして、要望があれば実行をしている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すぐに実行できることと、できないことがあるので、時間をずらしたり、日程を変えたりして希望に答えている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の嗜好は本人の意思や相談で決定している。理美容は家族が連れて行く場合と職員がする場合とがあり、その時は本人の好みを聴きながら行っている。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切る・むく・こねる・味付け・盛り付け・皮むき・配膳など本人が出来るところを自分の役割りとして生き生きとして行っている。	利用者と職員とで協力して食事の準備をしている。食材は庭の畑で採れたものを使うこともある。お誕生会では好みのものを彩りよく並べるよう努めている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べていただくのが基本であり、家庭的な料理をお出している。摂取量は常に管理しており、水分量も同じく摂取量を管理している。献立は職員一人一人が考えており幾通りの献立が考えられ、栄養が偏ることはないと思います。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後の口腔ケアは実施しているが昼食後口腔ケアは虫歯治療の必要な方のみ行っている。個人管理のできる方は毎食後行っている。今後は全利用者毎食後の口腔ケアを実行していきたいと思います。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の見極め、パターンは把握しており、トイレでの排泄を支援している。但し、おむつ使用を減らすのは課題として残っている。	排泄の時間を把握し、定時誘導もしている。よく見守ることで誘導のタイミングを絞り込むことができた。夜間放尿などの事例を適切に導くことができたなど、自立に向けての効果がみられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の兆候のある方は月例ミーティングにおいて個々の対策を立て、実行をしている。水分補給の管理や日課の散歩、体操を促進している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は外出行事以外は必ず実施しているが、時間帯は共用型通所介護のお客が増え、勤務体制状10:00～15:00に行っています。	ひのきの風呂は香りがよく、またマイクロバブルの設置もある。マイクロバブルは血行促進、美肌、洗浄に高い効果があるとされ、利用者にも喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方、ない方一人一人の今までの習慣に合わせて行っている。また自ら横になりたい方は部屋で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理者を決め、処方箋も管理しているため、変更があったとしてもすぐに判るようにし、また全職員に伝える義務があるのでスムーズに伝わっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを基本に、本人ができることを職員がフォローして行っている。他はアクティビティー・誕生会・季節行事・外出行事など利用者の体力にみあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課として散歩があり、天候次第で中止はあります。月に1・2回外出行事を行っております。	ロングコースとショートコース2つの散歩コースがあり、気温や利用者の体調を考慮し、選択している。寿司などの外食や文化・遊戯施設などにも出掛けている。雨天の場合は、回廊を利用し身体を動かすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事・近所への買い物等の一環で、IADLを持続できるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者の中でケータイを持っているので連絡をしているようです。また持っていない方も操作が分からない方がいらしゃるので教えるか、こちらからかけてあげます。帰宅願望の方は、電話を通じて家族とお話をしてもらいお落ち着かせています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感が分かるように飾り付けがあり、食堂からは庭が見え季節の木々や花が見える。また中庭があり、窓をあければグランドゴルフ場があり外から人の声も入ってきている。	換気を心がけ、加湿器や空気清浄機などの備えもある。庭には花が咲き、季節感を楽しめる。民家を改造した利点を生かし、家庭的な雰囲気があり、居心地がよい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場にはソファが置いてあり、利用者の方々思い思いにおしゃべりができる空間であり、そこが職員が入って会話の場が作られている。また奥には8畳間がありそこでも寛げるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人の馴染みの品々を持ち込んでもらい、個々の利用者の空間となっています。他に食堂や廊下に本人の作品等などが飾ってあります。	居室の掃除はできるだけ自分で出来るように、必要によって職員が介助している。居室内には馴染みの家具が持ち込まれ、家族の写真が貼ってある様子が確認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用のスペースには手すりが設置してあり自立歩行を促している。また本人の様子を観ながらやれることとやれないことを見極めて、少しでも自立した生活ができるようにしている。		